

## 看護教育の反省

(2)

福田邦三

### 6. 東洋的不合理

さらに多くの大学病院に見られる非論理的、東洋的な現象は  
看護婦に看護業務以外の研究介助の仕事を課していることである。

これは看護婦に雑役婦的労働を課するというのと同様に職種の無視であつて、まことに筋道のちがつた話である。そのような研究補助員は明白に研究補助員として雇用するべきである。一方もし専門家としての看護婦の特定人が特定の医師とともにその様な研究に協力従事したのであれば、業績は両者の共著として学界に発表するべきである。

看護婦が病院において所属医局の医師たちの願使のままに病院内のあらゆる業務を介助するのであれば、それは医局に雇われた maid-for-all と何等異らない。現在の専門家としての看護婦がいつまでもその様な取扱いに満足するであろうことは到底考えられないことである。その点は看護学生についても同様である。

なかには又、心の中でそのような不満を堪えながらも、労作によつてその日の糧を得ることをせめてもの幸福とし、またこれを給費生であることからくる必然の運命と諦めて、沈黙している者もあるであろう。さらにまた社会環境の不合理を是正しようとして立ち向うだけの自信を欠くために、または無批判に境遇を甘受する奴隸的従順の故に、黙つて營々と労働を提供している者もある

であろう。それは正に前近代的悲劇である。

### 7. 現代青年の異常性

しかし又一方思慮に乏しい20才前後の看護学生の中には、社会環境の不合理を批判し、その是正を求めるに急な余りに、攻撃的な言葉や反抗的な態度にて、果して看護婦として大成するかどうかを危ぶませるような者もある。このような振舞いは端的に見ると、如何にも批難排斥に値するものであるけれどもわれわれはかかる気構えの学生を如何に教育するかを考えるに先立ち、その異常な非淑女的振舞いが何に由来するかを省察して、彼女らの心情を理解しなければならぬ。これには種々な原因が寄与しているように思われる。

第1にフロイド学説に強調するような早い時期ではないにしても、彼女らの性格形成期が決して幸福、平穩、満足なものでなく、家庭生活においても、社会環境においても種々な拒否と剝脱が行われ、満たされざる多くのものをもつて彼女らが成長して来たことは思半ばに過ぎるものがある。それが多少とも彼女らのとげとげしい性格に寄与していることは想像できる。

ことに太平洋戦争の終末期から終戦直後にかけては満たされざる生活の連続であつたから その間に人となつた彼女らにおいて、性格の明るさを期待することは一般的には無理であろう。またこの時代において自己の生存を保つためには、原始的な生活の苦闘をつづけなければならなかつた。それはいわば文明のモラトリウム時代であつた。その社会環境の影響がある種の個人に、礼節よりも力をたつとぶ心的態度を培つたことは否めないと思う。

第2に太平洋戦争の直前から日本人に過大の自信をもたせる教育が行われ、往々思慮よりも行動をたつとぶ風潮が助長されていた。さらに終戦後の教育は東洋道徳の準則を破毀して、上からの封建的抑圧を一挙にして除去することを企てた一方、西洋的デモクラシーの道徳と責任観念とは一向に培われなかつた。かくて当時の環境条件と相まつて、自己主張が抑圧の反動として極度に昂揚されるに至つたのもいわば当然のことである。この時期に彼女らがうけた中学校、高等学校の教育では「民主社会では小さくなつていないでもよいものだ」ということは教わつたけれども、社会形成に不可欠な調和協力の精神と他人に対する自己の責任ということについては充分学ぶ機会がなかつた。

民主社会人の責任としての理性と、社会性とがまだ発達を見ない内に封建的服従のみが消去されたとすれば、不如意の条件の下においては、客観的事情を

斟酌し相手の立場を顧慮することなく、一本調子に自己を主張して、往々攻撃的態度に出ることも当然理解される所である。まして意識に対する感情の支配力の強い女性のことであるから、理性が感動におおわれて、主我的批判を行動に移し、時あつて不平を爆発させることも自然の勢である。もちろんこれは人としての「たしなみ」を忘れ、社会性に欠けた行為として批難されなければならない。

しかし一方ひるがえつて戦前のいわゆる「つつしみぶかい」婦人というのが実は必ずしも本当に人間的教養による洗練の表われではなくて、むしろ封建社会において、抑圧のコンディショニングの結果、意思の欠乏と批判性の不足からくるものであつたとすれば、現代子女の不平分子に見る「とげとげしさ」も一つの進化の道程だとみることができるのである。

## 8. 青年女子の特異性と舎監

青年期女子の特徴の一つとして、心情が漠然たる不安定感に彩られ、孤立をきらい庇護を求める気持がある。このことがそとに現われて依頼心ともなり、附和雷同性ともなる。自分たちのためを思ってくれる人があるという意識は、この年令層の女子にとって、人格を支えている大黒柱である。それであるから、一般的にいつて思い棄てられた女の内心の不幸は、容れられなかつた恋のいたでに悩む男の場合とは比べものにならない程深刻であり、場合によつては性格の破綻を来すことさえあるのである。

現在の看護学校学生の年令は、ちょうどこの時期に当っている。宗教的信仰か、上長の庇護か、学友の親愛か、異性との恋愛か、何かの形でこの欲求が満たされるのでなければ、内心の空虚感行動全体を色づけた不調和として姿を現わしてくる。したがつて看護学校寄宿舎(寮)の舎監の立場は、一面において慈母であると同時に、個人的にも社会的にも未完成な学生に指導を怠らない嚴父の役目も持たなければならない。つまりそれは1人2役という困難な仕事になつてくるのである。

しかも嚴父とか、賢母とかいう語からうけとられる語感、既成の確立した封建的社会において、その道德秩序の權威を万人が認めていた時代のひびきがあつたが、今は道德律や社会的秩序の動搖期、變革期にあつている。それゆゑ戦前の理念をそのまま舎監が寮生に押しつけようとするのはまちがいである。といつて寮生のはきちがえた民主主義をそのまま容認することも、その任

務に忠実な所以でない。ここ教年間に所々の大学女子寮に散発したトラブルは一方では舎監が寮生を中等学校生徒と大差ないように思い、かつ現代の社会環境を正視しなかつたというセンスの「ずれ」と他方では学生の側の異常性——それも現代の移行混乱期の所産であるが——とに原因がある。

かくて舎監と寮生との間に冷たい空気の壁ができ、相互の間に親愛と信頼とが欠乏するに至れば、もはや舎監はその任務を遂行することができないし、寮生の心情は不幸に満たされる。そして舎監が良心的に「しつけ」をしようとするほど、学生は反感を以て反応する。こうなればもはや教育の成功を期することができない。現代の青年殊に女子を対象とした教育が如何に周密な配慮を必要とするものであるかは、いい盡しがたいものがある。

それにも拘らず看護学校の寄宿舎の運営と舎監の選任には周到の注意が払われていないように見える。舎監がいかに心をつくして寮の生活を快適なものにしようと思つても、現在の制度では経営主体たる病院当局がその気になつてくれなければ、寮は往年の女工の寄宿舎のような雨露を凌ぐだけのみじめなものになり、寮生の道理ある不満が方向を誤つて舎監に集中することになるのである。またこの様に困難な年令層の学生が頼りにすることのできる情理ともに全き人を求めて舎監に任命することは仲々望まれないことであり、充分の高給を配して専任の適任者を求めなければならない筈のものである。

それにも拘らず現在ではその様な重大な意義が舎監の役目に含まれていることを認識している病院当局が甚だすくないように思う。

## 9. 看護学校の組織

現在の看護教育施設は殆んどみな病院に附属してつくられている。というよりもむしろ病院機構の一部として組織され運営されている。したがつて何々看護学校とか、何々高等看護学院と名乗つていても、その実は正しい意味での学校ではなく、病院内の看護婦養成組織にすぎない。その学生は、それであるから、学生と呼ぶよりも看護婦見習生と呼ぶ方が当つているのではないかと思われるような組織である。一体専門学校程度または短期大学程度の教育を授けて専門家としての看護婦を養成しようというのに果してこれでよいものだろうか。

専門学校ならば、われわれの常識からすれば、教授陣容が揃つていなければならぬ筈である。一人の専任教授も専任助教授もない専門学校というもの

は、われわれには到底考えられないが、そのような看護学校が日本には普通である。

規則によつて看護学校に専任教官が任命されている。その勤務は授業以外にも、教務すなわち教育運営に関する事務に亘つている。看護教育においては時間表の作製や臨時変更などの事務が極めて多く、その教務運営には教官を煩わす必要が多いのであるから、教官の一人が授業以外に教務にたずさわることはまことに当を得ている。

また品性の陶冶を重んずるという意味から経験と思慮に富んだ教官を学生課長、学生課員の仕事にあてることは、これまた適切なことである。それが授業の義務なしにこれに専従するのであつても勿論差支えない。しかし本当の専任教官として授業に専念する人々を充分持つていなければ、本当の意味で学校とは云えないのではないか。その人数は相当多くなければいけないのではないか。

授業という中にはもちろん看護実技の実習を含む。実習指導者として各科の看護婦長、主任が兼任するだけでは、徒弟教育は出来るだろうが、専門学校程度の教育は不可能である。何となれば婦長や主任は病院においてそれぞれ充分一人前以上の任務があるのであるから、その他に詳細な日々の実習計画を立案したり実施したり、反省したり、学生に対する実習効果を後から評価したりするような、これまた一人前の仕事をする時間の暇も頭の余裕もないのが当然だからである。

こう考えてくると、全国の看護教育の現場から看護教育の組織を正規の短期大学の形にすべしという声は段々に強くなつてきていることが誠に当然と思われるのである。

## 10. 看護学校の経営主体

現在多くの看護学校の経営については、寄宿舍の施設に関するものを含めて校長に一定の必要な予算が委ねられて、その範囲内において最善を盡すべく仕組まれているという風に外部の人は思うかもしれない。しかし事實は決してそうでない。

特別の例は別として、一般の様式としては学校は病院機構の中にあつて、管理は病院事務長の掌握する所である。したがつて、病院長と病院事務長とが看護学校を立派に運営しようと思えば、学校は立派にやれるが、反対に熱意

がないで過剰の節約をしようと思えば、寄宿舍の疊がいくらポロポロになつても、舎監や校長が繰り返し病院事務当局に要請するだけで、2年待つても実現をしないというようなことも起り得るのである。校長を病院長が兼任している場合が多いが、それは必ずしも看護教育を主宰するのに適任だからというのではなく、前述のような機構の上で好都合だという理由からである。すなわち学校経営という点で多くの看護学校には正しい意味での校長が実在しないといふことになる。

どうしても適任者を選んで病院長と別に校長をおき、それに必要なだけの予算を与えて、教育遂行の責任と権限をもたせるのでなければ、まともな教育はできないと思う。折角戦後に専門家としての看護婦の養成を目ざして出発した看護学校は、このままではついに実体を失つて了うおそれがある。

## 11. 結 び

これを要するに戦後に導入された進歩的看護態勢の一環として新設された看護学校の教育は、少数の例外的な場合を除けば、必ずしも目的を達しているとはいえない。これを成し遂げるためには、看護学校及びこれを経営する病院が、(1)病院がその本来の使命に目ざめ、患者本位の運営方針を確立すること、(2)看護要員を近代的に再組織し、看護運営を近代化すること

- (3)看護婦の専門家(プロフェッショナル)としての地歩を認めること
  - (4)看護学校を正しい意味での学校の教に組織し、真面目な教育運営が保証されるように教官陣容、事務組織予算を確立すること
- などが緊急に必要な措置である。

また一方において看護婦諸氏は確固たる信念の下に男尊女卑の封建思想の殻を洗いおとし、深く広い思慮の上に淑女としての品位を保ちつつ柔らかな心強くその地歩の向上をはかられんことを切望する。(東大医学部衛生看護学科主任)

看護婦募集	
一、募集人員	十名
二、採用条件	看護婦の資格のある方 三十才未満にして寄宿に出来る方
三、給与	2.1. 看護婦平均一万三千円程度(税込) 2.2. 月収平均一万三千円程度(税込) 看護婦用被服一切・寝具貸与
四、応募手続	希望者は次の書類を郵送或いは直接持参して下さい。 1. 履歴書 2. 免許証写 3. 健康診断書
五、連絡先	静岡県駿河郡富士岡村神山一、九一五 静岡県駿河郡富士岡村神山一、九一五 電話 御殿場線(七)波野下車徒歩東方40分 国鉄御殿場線(七)波野下車徒歩東方40分